

テーマ：(仮称) 生涯学習大学の創設について

I はじめに

第 10 期生涯学習推進委員会議は、第 9 期推進委員会議の意見書で提言された「生涯学習大学の創設」をテーマに検討を重ねてきた。

第 9 期推進委員会議の提言は、「学び」を軸にした縦横に渡る「新たな仕組み」をつくりあげるために「(1) ボランティア活動の充実、(2) ボランティア等の人材派遣、(3) 学習コーディネーターの充実、(4) 生涯学習大学の創設」の四つが柱であったが、その意図を充実発展させていくことが第 10 期推進委員会議の役割であった。

テーマの検討にあたり、各委員から基本的な事柄、大学創設の意義、カリキュラム内容等々について様々な意見が出され、活発な議論が重ねられてきた。

第 4 回以降の会議では、「生涯学習大学」のイメージの具体化を図るために、まず先駆的な生涯学習大学事例を研究するとともに、既存の生涯学習事業の情報共有を行った。その上で千代田区版生涯学習大学については、第 9 期推進委員会議で検討した『生涯学習の輪を広げ、それを充実していくために各種・各所の「学び」の機会を縦横に紡ぐための中核的な存在』としての組織とカリキュラム内容を創り上げていくことが確認された。その方法として「モニターコース」を設置し、受講者の意見を集約した上で、内容の充実をめざすことが委員間の共通理解事項となった。

モニターコースは、平成 27 年 9 月 29 日から 12 月 3 日の期間で計 8 回開講され、36 名の区内在住者、在勤者が参加した。なお、詳しい内訳は本編Ⅲ「(仮称) 生涯学習大学モニターコース 生涯学習コーディネーター～体験編～『発信力』実施報告」を参照されたい。モニターコースでは毎回受講者からアンケートを募り、本推進委員会議の議論に役立てることも試みた。

第 8 回会議では、モニターコース受講者のアンケート内容を受けて、本大学の基本理念、方針等について再確認の意味を兼ねて検討を行った。第 9 回会議では、本大学の名称を受講者アンケートの中から一番票数が多かった「ちよだ生涯学習カレッジ」として決定した。

今後、開校されるちよだ生涯学習カレッジが「学びを紡ぐ新たな仕組み」として発展していくためには、千代田区民、千代田区在勤・在学者の充実した「学びの場」＝「継続した学びの場」として存在し続けることが重要である。学びを紡いで地域活性化のために、地域住民、千代田区で学ぶ人々、働く人々が協同連帯できる場になることを期待したい。

本会議で各委員が交わってきた活発な議論、モニターコース受講者の意欲的な意見が、今後の「ちよだ生涯学習カレッジ」の未来を明るくものにすることを確信して、平成 28 年 10 月の開校を待ちわび、本報告をするものである。

Ⅱ 『ちよだ生涯学習カレッジ』の開校に向けて

- ◆ 第10期生涯学習推進委員会議にて正式名称・基本理念・方針の検討を重ね、下記のとおり決定した。また正式名称については、モニターコース受講者に実施したアンケートの結果を踏まえ決定した。

1. ちよだ生涯学習カレッジの骨子

- 正式名称
ちよだ生涯学習カレッジ
- 開校時期
平成28(2016)年 10月
- 基本理念
東京の中心地「千代田区」は江戸以来の歴史・文化を豊かに継承しつつ、2020年のオリンピック・パラリンピック開催都市を経て、さらに新しく変化し続ける国際都市です。この変化に対応し、学び続けることが欠かせなくなる社会では、大人が自ら学び、同じ目的を持つ仲間を見つけ、仲間とともに学び合い、一緒に何かを創る場が必要になってきます。学びは、コミュニティ自体に課題解決能力や新しい価値を生みます。
ちよだ生涯学習カレッジは学びで人と地域をつなぎ、グローバルとローカル、社会と個人の交流の場となることをめざし、学びを地域に還元し、「これからの千代田」を担う、社会貢献に積極的な人材をサポートします。生涯学習によるまちづくりやそのプラットフォームとなることをめざします。
- 3つの方針
 1. 千代田区・地域・コミュニティ (Globalism グローバリズムと Localism ローカリズム)
 - ・千代田区の伝統 (歴史・文化)
 - ・千代田の今 (都市計画やまちづくり、教育)
 - ・地域の捉え方、関わり方
 - ・Think globally, act locally
 2. 学ぶ、つながる、続ける (Active learning アクティブ ラーニング)
 - ・大人の学び、学びあい
 - ・地域で学ぶこと、学べること
 - ・学びのつながり、広がり
 - ・学んだことをどう生かすのか、仲間作り
 - ・続けていく必要性、重要性
 3. プロボノ精神 (Speciality スペシャリティと Work life balance ワークライフバランス)
 - ・専門性を生かすこと
 - ・社会貢献での生きがい
 - ・本業や家庭へのフィードバック
 - ・キャリア形成

- ◆ 第10期生涯学習推進委員会議にて「ちよだ生涯学習カレッジ」の概要・カリキュラム等の検討を行い、以下のとおり決定した。未定の項目及び詳細については、平成28年度以降の第11期生涯学習推進委員会議に引き継ぎ、会議で議論を行った上で確定する。

2. ちよだ生涯学習カレッジ概要

- 設置コース
学びと地域のコーディネーター養成コース
※平成30（2018）年10月に2つ目のコースを開講予定
- 授業形態
講義形式の授業以外に、ワークショップなどのグループワーク、ディスカッション、生涯学習やボランティアの現場見学や体験など多様な方法を取り入れ、地域での活動に結び付けていく。
異なる価値観を持つ大人同士の関係づくり、場づくりを学びあいながら培う。
- 修学期間
2年間（10月から翌年7月までを1年間とし、2年間で修了）
- 授業回数
38回（19回／年）
※回数の中には、1年次入学式・2年次修了式を含める
- 授業時間
1回あたり2時間
- 授業の曜日と時間帯
平日の夜間（19時～21時）
- キャンパス
千代田区全体がキャンパスとなり、見学や体験などを行う。講義は主に「九段生涯学習館」と「日比谷図書文化館」で実施する。
- 事務局所在地
千代田区立九段生涯学習館（〒102-0074 千代田区九段南1-5-10）
- 講師
大学講師、千代田区関係者および各専門機関の研究者、各地でさまざまな活動をしている諸団体の代表など、学びと地域に関わる多種多彩な方々を予定。
- 進級・修了要件
入学式・修了式を除く、各単元（全6回）の内4回以上の出席、かつ年間全18回の内、14回以上の出席を必要とする。15分以上の遅刻早退は、欠席とみなす。
- 対象（受講資格）
 - ① 20歳以上（平成28年10月1日現在）
 - ② 千代田区内在住・在勤・在学、または元区内在住・在勤・在学のいずれかに該当
 - ③ 2年間継続して学ぶことができ、地域活動やボランティア活動を通して、学習成果を実践する意欲のある方

- 定員
1 コース 30 名程度
- 受講料
未定
- 選考方法
願書による選考
※合格者が定員を上回った場合には、抽選により入学者を決定する

3. カリキュラム

開校初年度に開講する「学びと地域のコーディネーター養成コース」に続き、2年ごとにコースを増設し、将来的には複数のコースが設置される予定である。

1年次の基礎①、基礎②、専門①は全コースの共通履修とし、2年次は専門②、実習、演習の、より専門的な独自の科目を履修するコースカリキュラムとなる。

- カリキュラム構成
基礎①「千代田学」、基礎②「千代田区の生涯学習」、専門①「生涯学習概論」、専門②「生涯学習特論」、実習「生涯学習計画」、演習「生涯学習演習」の6単元で構成され、1つの単元は6授業からなる。各単元の目的は下記のとおり。

基礎①「千代田学」

自分＝個人を見つめ直し、千代田区内の特色ある街づくりの事例を通して、地域との関わりを考察する。

基礎②「千代田区の生涯学習」

講義だけでは知ることのできない千代田区の教育や地域の実情を、見学や体験を通して学ぶ。

専門①「生涯学習概論」

生涯学習についての一般的な知識と大人の学びについての基礎知識を学ぶ。

専門②「生涯学習特論」

プロボノについて学び、コーディネーターとして求められるワークショップやファシリテーションの実践力を養う。

実習「生涯学習計画」

生涯学習イベントをグループで企画、運営し、グループワークでできること、グループで成し遂げる力をつける。

演習「生涯学習演習」

一人ひとりが、自分で探した課題について発表し、質疑に答えるゼミ形式の授業を通じて、個人の力量を形成、増幅させる。

	講座名・テーマ	内容
開校式	入学式・オリエンテーション	入学式 オリエンテーション カリキュラム説明 自己紹介
基礎①-1	私、私の生き方	【講義】 自分のキャリアを振り返る 今後、地域社会とどう関わっていくのか ライフキャリア
基礎①-2	千代田学Ⅰ	【講義】千代田区概論 「千代田区の魅力～生活の場として～」
基礎①-3	千代田学Ⅱ	【講義】まちづくりとコミュニティ 「千代田区の魅力～街としてのあり方～」
基礎①-4	千代田学Ⅲ ケーススタディⅠ	【講義】環境、景観を大切にしたまちづくりの「大丸有エリア」、新旧の住民がイベントなどを交流している「淡路町エリア」、現代アートと再開発を融合させている「神田錦町エリア」、コミュニティスクールの活用が進んでいる「外神田エリア」、新しい地域密着型スポーツ・文化クラブを立ち上げた「富士見エリア」、歴史を生かした地域づくりでネットワークを図る「麹町・紀尾井町・番町エリア」などの取り組みを探る。
基礎①-5	千代田学Ⅳ ケーススタディⅡ	
基礎①-6	千代田学Ⅴ 探求	【グループワーク】 自分と千代田区を考えよう
基礎②-1	千代田区の生涯学習	【講義】千代田区の生涯学習施策 千代田区の生涯学習実情 基礎②ガイダンス
基礎②-2	施設見学&スタディ	【見学&レクチャー】 社会福祉協議会 ちよだボランティアセンター
基礎②-3	講座サポート&見学	【実習】 九段生涯学習館、日比谷図書文化館での講座をサポートし、レポートする
基礎②-4	学校見学	【見学】 千代田区内の生涯学習やボランティアに関わる施設を見学し、レポートする。
基礎②-5	自由見学	【見学】 千代田区外の生涯学習やボランティアに関わる施設を見学し、レポートする。
基礎②-6	課題探求	【グループワーク】 見学や実習レポートを共有し、課題や論点を見出し、その解決方法を探る。
専門①-1	生涯学習論Ⅰ	【講義】大人の学び
専門①-2	生涯学習論Ⅱ	【講義】21世紀に求められる学びとは
専門①-3	他者を容認	【講義&ワーク】 多文化共生 異なる価値観
専門①-4	他者と交流	【講義&ワーク】 世代間交流
専門①-5	ボランティア論Ⅰ	【講義】ボランティアとは
専門①-6	ボランティア論Ⅱ	【講義】生涯学習とボランティア

	講座名・テーマ	内容
専門②-1	プロボノ論Ⅰ	【講義】 新しいボランティアの形「プロボノ」
専門②-2	プロボノ論Ⅱ	【講義】 自分の専門性や得意なことをプロボノとして活かす
専門②-3	ワークショップ論Ⅰ	【講義】 ワークショップとは？
専門②-4	ワークショップ論Ⅱ	【講義】 目的に応じたワークショップ 有効なワークショップを知ろう
専門②-5	ファシリテーション論Ⅰ	【講義】 ファシリテーションとは？ ファシリテーターとは？
専門②-6	ファシリテーション論Ⅱ	【講義】 ファシリテーションのスキル
実習-1	イベント企画と運営のコツ 学祭イベント会議Ⅰ 「何をする？～テーマ～」	【グループワーク】 九段生涯学習館で2～3月頃に開催予定の生涯学習イベント「九段オープンラーニング」期間中にちよだ生涯学習カレッジのオープンカレッジを開催する予定。受講生が主体となって、生涯学習に関する企画を実施することを目標にグループワークで、企画、運営、開催し、終了後は振り返りをする。企画は講演会、ワークショップなどどのような形式でもかまわない。
実習-2	学祭イベント会議Ⅱ 「何をする？～詳細～」	
実習-3	学祭イベント会議Ⅲ 「どうやって？～担当・役割～」	
実習-4	学祭イベント会議Ⅳ 「どうやって？～準備・運営～」	
実習-5	オープンカレッジ	
実習-6	振り返り 省察&課題	
演習-1	プレゼンテーション	【講義】 千代田区における生涯学習やボランティア、地域の課題を見つけ、探求し、ゼミ方式で発表していく。課題の把握をし、分析、どう発展させ、改善するのか、までを提案する。 例) 個別の事業（人材バンク登録制度、生涯学習団体1日公開講座、区民提案型の企画案募集講座など）や全体的なこと
演習-2	生涯学習ゼミⅠ	
演習-3	生涯学習ゼミⅡ	
演習-4	生涯学習ゼミⅢ	
演習-5	生涯学習ゼミⅣ	
演習-6	まとめ&講評	
閉校式	修了式	

Ⅲ (仮称)生涯学習大学モニターコース 生涯学習コーディネーター養成～体験編～『発信力』実施報告

1. モニターコース募集要項

- 日程
平成 27 年 9 月 29 日(火)から 12 月 3 日(木)までの期間で全 8 回
- 対象
20 歳以上で、全 8 回の講座すべてに出席可能な方。
千代田区在住・在勤・在学者を優先とするが、社会教育・生涯学習・ボランティア活動などに関心のある区外の方も応募可能。
- 定員
30 名程度
- 申込み方法
締切日までに、規定の申込書（氏名、性別、年齢、区分、住所、電話番号、e-mail アドレス、全 8 回参加の可否、応募動機）に記入し、ホームページ、郵送、窓口持参にて申込みを受付。
- 募集期間
平成 27 年 7 月 20 日から 8 月 31 日まで（必着）
※広報千代田 7 月 20 日号に掲載
- 受講料
無料
- 案内
2020 年（平成 32 年）の東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、東京の中心地、千代田区では、新しい地域人材育成を目的に、来年度（平成 28 年度）「(仮称) 生涯学習大学」の開校を予定しています。
今回はそのモニターコースとして、体験編を開講します。生涯学習コーディネーターは、「学び」を軸に活動と交流を広げ、地域活性化につながる「新たな仕組みづくり」のリーダー的存在として活躍が期待されます。
地域での交流や生涯学習に興味がある人、キッカケを探している人など多くの方の応募をお待ちしております。
- 概要
千代田区版「生涯学習コーディネーター」養成の体験版として、①基礎となる「生涯学習」、②生涯学習を基盤にした「プロボノ*・ボランティア」、③コーディネーター資質の一つとして「発信する力・受信する力」の 3 テーマを一連の流れで学習し、異なる価値観を持つ大人同士の「関係づくり」、「場づくり」、「発信力」を学びあい培います。
※プロボノ…各分野の専門家が職業上持っている知識・スキルや経験を公共的な目的のため貢献するボランティア活動

○ 日程・会場・テーマ・内容

	日にち	会場	テーマ	内容
1	9月29日(火)	九段生涯学習館	21世紀に求められる学びとは	【基礎】 「Think Globally, Act Locally (広い視野を持って、身近な地域で活動する)」につながる学びと、共に生きるための学びについて
2	10月6日(火)	九段生涯学習館	地域にみるボランティアとは、コーディネーターとは	【基礎】 ボランティア活動の多様性とそれを進めるためのポイントやコーディネーターの専門性とその役割について
3	13日(火)	九段生涯学習館	生涯学習とコーディネート	【専門】 ボランティア活動やプロボノの可能性を探るとともに生涯学習におけるコーディネートについて
4	20日(火)	九段生涯学習館	プロボノ、ボランティアの可能性と発信力	【専門】 プロボノの千代田区での生かし方、発信力、発信するための受信力について
5	29日(木)	日比谷図書文化館	発信する力 企画会議	【演習】 千代田区と東京オリンピック・パラリンピック開催をキーワードにグループ毎にテーマを探り、作品として発信するまでの過程を学ぶ
6	11月5日(木)	日比谷図書文化館	発信する力 テーマ表現①	【演習】 情報発信の内容を各グループで考え、作品の制作をする
7	26日(木)	日比谷図書文化館	発信する力 テーマ表現②	【演習】 6回目の続きで作品を仕上げる。発信のために有効な話し方など実践的なスキルも身につける
8	12月3日(木)	日比谷図書文化館	プレゼンテーション &講評	【演習】 グループ毎にプレゼンテーションを行い、作品について良い点・課題点等質疑応答や感想を述べあう。講師の講評もあり

※開講時間は全日程 19時～21時

○ 講師紹介

山西優二 氏

早稲田大学文学学術院教授。専門は国際教育、開発教育、共生社会論。かながわ開発教育センター代表、日本国際理解教育学会理事、逗子市教育委員会教育委員など。「平和の文化」「共生の文化」づくりにつながる地域での学びづくりに携わっている。

1・2 回目担当。

笹井宏益 氏

文部科学省国立教育政策研究所生涯学習政策研究部長。1980年に文部省（当時）に入省。1995年、北海道大学高等教育総合センター助教授に就任。1998年から文部科学省国立教育政策研究所生涯学習政策研究部長として活躍。専門は社会教育学、生涯学習政策論。主な著書に『生涯学習のイノベーション』『成人教育は社会を変える』（玉川大学出版部）など。

3・4・8 回目担当。

テレビ朝日「オトナ出前講座」担当チーム

報道局記者、番組プロデューサー、ディレクター、アナウンサー経験者で構成。テレビ朝日「オトナ出前講座」は、成人・生涯教育支援としてスタートし、数多くの自治体でメディアに関する講座を行っている。

5～8 回目担当。

2. スケジュール

○ 募集

平成 27 年 7 月 20 日号の広報千代田にて、モニターコース受講生の募集案内を開始した。同時期に九段生涯学習館ホームページや区内施設、関係各所にて募集要項を配布し、区内掲示板には、ポスターを掲示し案内を行った。

○ 募集状況

平成 27 年 8 月 31 日締切り（必着）

■応募者内訳（73 名）

年齢	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	不明
人数	1	13	16	18	19	4	2

性別	男	女
人数	29	44

区分	在住	在勤	在学	他
人数	22	34	1	16

○ 選考

平成 27 年 9 月 6 日、書類審査と抽選を経て、40 名に受講案内の通知を送付した。受講前の事前課題として自己紹介文の提出を課し（9 月 19 日締切り）、最終受講人数が確定した。

■受講案内通知送付（40 名）

年齢	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	不明
人数	1	8	12	11	8	—	—

性別	男	女
人数	14	26

区分	在住	在勤	在学	他
人数	17	23	—	—

■受講確定者（36名）

年齢	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
人数	1	7	10	10	8	—	—

性別	男	女
人数	14	22

区分	在住	在勤	在学	他
人数	15	21	—	—

3. 各回の講座内容（概要）

- 1回目（講師：山西優二氏／早稲田大学文学学術院教授）
「21世紀に求められる学びとは」をテーマに、全8回の導入としてスタートした。他者との関係づくりで大切な要素の話をきっかけに、「自己紹介」や「いいとこさがし」のグループワークを行った。
「いいとこさがし」では、自己と他者への肯定感が高まり、互いを認め合う関係づくりが今後の活動に大切であることを体験した。
- 2回目（講師：山西優二氏／早稲田大学文学学術院教授）
テーマは「地域にみるボランティアとは、コーディネーターとは」。逗子市社会福祉協議会作成の「ボランティアハンドブック」を参考に、ボランティア活動の歴史と領域が多様化している現状や地域事例の紹介があった。ボランティアな立場で自分たちが何をどうやっていくかなど、その可能性の高さを感じた。
続いて、コーディネーターとしての必要な力・要素の話を通して、ボランティアとコーディネーターのどちらも、人と出会い関係をつくる事、関わり合いから活動が生まれるという事が大切な要素であることを学んだ。
- 3回目（講師：笹井宏益氏／文部科学省国立教育政策研究所生涯学習政策研究部長）
講義では、歴史の流れをふまえながら、生涯学習の理念と様々な教育機能との関係について、今の時代の「学習」について解説いただいた。
グループワークでは、「やってみたいこと」を一人ひとり書き出し、グループで語りあい、聞き合いを行った。様々な経験を持つ人たち、異業種の人たちと、「語る」「聞く」場面には、いろいろな示唆があり、何度やってもよいもので、この体験の積み重ねが大事なのだという、まさに「生涯学習の実践」を体験した。
- 4回目（講師：笹井宏益氏／文部科学省国立教育政策研究所生涯学習政策研究部長）
ボランティア活動の場では、様々な立場や異業種の人が一堂に会するため、大切なことは

相手の話を素直に聞き、違いを受け入れること。そこから、アイデアや気づきが生まれ新しい世界を知り、知識と知識が結び付くことが生涯学習のダイナミズムであることを学んだ。その上で「プロボノ」に及び、企業の社会的責任や自分の専門性(キャリア)を磨くために、ボランティア(自発的)に、自分の知識やスキルを活かし、社会に貢献し、異質な文化・視点・人々と接し、それが自分の専門性を磨くことに繋がると講義があった。

ワークショップでは、ボランティアな自分の活動をどうやって広げていけばよいのか、ボランティア活動におけるリーダーシップの姿を考察しながら、ウェイバー氏の事例を読み、「活動が大きく広がった要因ベスト3」をグループで話し合い、最後には全員で共有した。

○ 5回目(講師:テレビ朝日「オトナ出前講座」担当チーム)

グループワークが主となる後半4回の入り口として、「発信する力」を養う実践的な授業となった。受講者ひとりひとりが30秒自己紹介にチャレンジし、その後、各講師のそれぞれの立場(プロデューサー・記者・アナウンサー)から、情報を発信する(伝える)ための基礎的なコツや大切にしている心構えの話があった。

受講者は6つのグループに分かれ、「千代田区の魅力」をテーマに、グループ単位で情報発信するネタや発信方法を考え、最終回に情報番組風にプレゼンテーション(発表)する企画会議を行った。

※各グループの話し合いの中で決まったテーマは、「歴史」、「地域・場所」、「文化」、「生活」

○ 6回目(講師:テレビ朝日「オトナ出前講座」担当チーム)

前半は「情報を伝える工夫」について、より具体的なことをお教えいただいた。疑問形にする、順位づけをする(ランキング)、ストーリー仕立てにするなど、興味を持ってもらう工夫が大事であること。さらには、ニュース原稿の書き方や実際に話す際の声のトーンや表情にも、聞く人のための細やかな配慮や工夫が必要であること。多くの細かなポイントが伝授された。

後半は前回の企画会議の続きで、グループごとに最終回に向けた準備を進めた。

○ 7回目(講師:テレビ朝日「オトナ出前講座」担当チーム)

前半はプレゼンテーションのコツ、特に表現することをテーマにお教えいただいた。ポイントは、①原稿は読まず話しかける、②原稿は丸暗記せずポイントを押さえておく、③話す文章は短く、④ゆっくり大きな声でハキハキと、⑤写真・資料は動かさずじっくり見せる、⑥自信を持つ、⑦自分自身が楽しむ。

後半は各グループに分かれ、引き続き最終回に向けたプレゼンテーションの準備を行った。講師の先生方が各グループの輪の中に加わり、対等な関係の中で受講者の話や悩みを聞きながら、いろいろな角度からアプローチし、グループのメンバーにとって、新しい刺激、視点の整理となった。

○ 8回目(講師:テレビ朝日「オトナ出前講座」担当チーム、

笹井宏益氏/文部科学省国立教育政策研究所生涯学習政策研究部長)

3回の授業と自主活動で準備してきた「千代田区の魅力」情報発信のグループ発表を行った。生放送(ライブ)形式だからこそ、その場限りの生きた言葉・表情・想いが見られた。回を重ねるごとに、様々な人と関わり違いを楽しみながら、いろいろな知恵が集まり、想いをカタチした成果でもあった。

発表終了後、笹井先生から「“情報の発信”とは、話題をつくること。今回の経験を活かし、さらに発展させながら、いろいろな仲間と、とても素敵な発信力を持つものをつくりあげていってほしい」というコメントをいただいた。

【各グループ発表概要】

グループ①

タイトル：「神田っ子」

概要：「神田」江戸から続くエコやコミュニティ、祭りについて

グループ②

タイトル：「千代田私のベスト3」

概要：千代田区の気になる坂・文人・地域のベスト3を紹介

グループ③

タイトル：「世界に発信！千代田のっておき」

概要：SNSを使って、「千代田の魅力」を世界に発信するための写真スポットガイドを紹介

グループ④

タイトル：「ぐるっと千代田 意外でしょ」

概要：知られていない、千代田区の意外なスポットを紹介

グループ⑤

タイトル：「実は文化の発信地?! カタイ千代田をヤワラカク」

概要：政治や経済の中心地として堅いイメージのある千代田区の柔らかい文化を紹介

グループ⑥

タイトル：「千代田区に住もう！」

概要：千代田区外の人が、千代田区に住みたくなるような千代田区の紹介

4. 受講者アンケート集計結果

○ 各回出席人数・満足度

回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目
出席人数	35	34	34	35	30	31	26	30
欠席人数	1	2	2	1	4	2	6	2
キャンセル					2	1	1	
各回満足度 (%)	88	85	84	87	82	77	83	90
全8回を通しての満足度：86%								

○ アンケート結果概要（回収枚数：31枚）

ふさわしいと思う大学名称を選んでください（複数回答あり）			
1	千代田区生涯学習大学	6	その他内訳
2	ちよだ生涯学習大学	3	
3	千代田生涯学習カレッジ	2	
4	ちよだ生涯学習カレッジ	13	
5	千代田生涯学習アカデミー	8	
6	ちよだ生涯学習アカデミー	5	
7	その他	0	

履修はどれくらいの期間で修了することが望ましいですか			
1	1年	29	その他の回答
2	1年半	0	● 3～6ヶ月
3	2年	1	
4	それ以上	1	
年間に何回くらいの授業があることが望ましいですか（複数回答あり）			
1	10回（月に1回）	10	それ以外の内容
2	20回（月に1～2回）	17	
3	30回（月に2～3回）	5	
4	40回（月に3～4回）	0	
5	それ以外	1	
1回あたりの授業時間はどのくらいが適切だと感じますか（複数回答あり）			
1	60分	1	それ以外の内容 ● ワークショップは3時間ぐらい、講義は90分ぐらい
2	90分	16	
3	120分	13	
4	150分	1	
5	それ以外	1	
1回あたりの授業料はいくらが妥当だと思いますか			
1	300円	3	それ以外の内容 ● 3,000円でもOK
2	500円	16	
3	800円	3	
4	1,000円	8	
5	それ以外	1	
参加しやすい曜日や時間帯を教えてください（複数回答可）			
1	月曜（夜間）	9	それ以外の内容
2	火曜（夜間）	15	
3	水曜（夜間）	14	
4	木曜（夜間）	16	
5	金曜（夜間）	10	
6	土曜（午前）	7	
7	土曜（午後）	8	
8	土曜（夜間）	4	
9	日曜（午前）	2	
10	日曜（午後）	4	
11	日曜（夜間）	0	

ひとクラスの受講生人数は何人ぐらいが妥当だと考えますか（複数回答あり）			
1	20名	11	それ以外の内容
2	25名	5	
3	30名	13	
4	35名	2	
5	40名	1	
6	それ以外	0	
会場はどのエリアが通いやすいですか（複数回答可）			
1	神保町・九段下	21	それ以外の内容
2	番町・麴町	7	
3	神田・秋葉原	9	
4	富士見・飯田橋	5	
5	大手町・東京・有楽町	12	
6	永田町	3	
カリキュラムとして下記を想定しています。特に興味があるのはどれですか（複数回答可）			
1	千代田区概論	8	それ以外の内容
2	生涯学習概論	8	
3	生涯学習の実践・現場	15	
4	ボランティア・プロボノ	9	
5	コーディネーター	16	
6	ファシリテーター・ファシリテーション	13	
7	地域貢献・地域デビュー	9	
8	大人の関係づくり・居場所づくり	13	
9	ワークショップ	13	
10	それ以外	0	
どのような方の授業を受けてみたいですか（複数回答可）			
1	千代田区在住者	3	それ以外の内容 ● 外国人との交流がしたいので、千代田区在住・在勤・通学する外国人の方 ● テレビ朝日の講座
2	千代田区役所関係者	6	
3	千代田区内の民間企業関係者	12	
4	大学の先生	16	
5	NPO関係者	15	
6	地域おこし・まちづくり関係者	17	
7	ボランティア・プラボノ関係者	15	
8	それ以外	2	

大学に望むことは何ですか（複数回答可）			
1	自分自身の学びを深める	23	それ以外の内容
2	仲間づくり・居場所づくり	13	● 色々な生涯学習があることを知る
3	実践的な能力を得る	16	
4	千代田区の知識を深めたい	7	
5	地域（千代田区）貢献への足がかり	8	
6	それ以外	1	
卒業後にどのように活躍できるといいですか（複数回答可）			
1	生涯学習講座などの講師をする	11	それ以外の内容
2	生涯学習関連のイベント運営の手伝い	19	
3	生涯学習サークルの支援	8	
4	生涯学習の相談窓口	7	
5	自分たちでグループをつくり、活動	9	
6	（仮称）生涯学習大学にボランティアとして関わる	13	
7	それ以外	0	
卒業後にどのようなサポートがあることを望みますか（複数回答あり）			
1	ボランティアとしての活動する場の紹介	17	それ以外の内容
2	専門性を活かしたプロボノとして活動する場の紹介	20	● 交通費程度の援助と茶菓子代
3	ボランティアやプロボノ活動のための会議の場の提供	8	
4	ボランティアやプロボノ活動をするための相談やサポート	12	
5	他のボランティアやプロボノと交流の機会	14	
6	卒業後も継続的に学べる場	15	
7	それ以外	1	
その他、ご自由にご意見をお書きください（一部抜粋）			
<ul style="list-style-type: none"> ● 一口に生涯学習、ボランティアといっても実に多彩な活動であること、専門性に特化し、細分化していることなどを改めて知ることができた。千代田区が千代田区として行う生涯学習のコーディネートはどうあるべきなのか、まだまだ議論の余地があるのであれば、幅広く学び多様性に対応し、一体感(方向性)を出す形になればと思う。 ● グループワークでは参加者によって温度差が違うなと思った。また、仕事等で急ぎよ来られなくなる人もいるので、そのあたりのフォローは大切だと感じた。 ● グループワークは盛り上がるが、後半4回の講座については、もう少し講義の時間があればいいと思った。 ● いろいろなバックグラウンドを持つ方々との共同作業は難しくもあり、楽しくもあった。こういうコースの醍醐味なのかな、と思う。皆さん貢献意欲が高く、いいチームだった。 ● ボランティアは実践の場が無いと育たない。また、失敗と成功を重ねる事によって自分自身が判り、仲間との意見交換によってチームの方向性が自ずと定まる。2019年ラグビーワールドカップ日本開催や2020年東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れ、何が自分達にできるのか、そのできる事を一つ一つ着実に進める事によって、結果は自然に出てくると思う。 			

千代田区立九段生涯学習館で発行している「Dan Dan」（生涯学習コミュニティペーパー）のボランティア編集室に興味がありますか

1	説明会に参加したい	13
2	参加できないが、興味はある	8
3	参加しない	9

(仮称)生涯学習大学で、ボランティアスタッフとして参加することに関心がありますか

1	関心があるので話を聞いてみたい	24
2	興味がない	5

将来的に設けてほしいコースをご自由にお書きください（一部抜粋）

- 自分のやりたいことをどのようにして表現していくか、そのための関係づくりを行い、そのための場をどうつくっていくか。コーディネートを基盤とした体系をイメージし、実現にこぎつけるまでの創業的なコース。
- ボランティアの人々をどのように活用するのか、オーガナイザー側の気持ちも知りたい。そうすることで、どのようにボランティアとして行動すれば良いかイメージしやすいと思う。
- 「コミュニケーション力」(例：コミュニティメンバーとのコミュニケーション、リーダーとしてまとめる時のコミュニケーション、訪日客（様々な国・地域）の人と接する時の注意やコミュニケーションのコツ) など。
- 千代田区に勤めていて、千代田区で定年を迎える人は多いと思う。仕事が終了したのであればもう千代田区に来る必要はなくなり、これからは地元で何か活動するなり、新しい仕事をするなり新たな場所に行く。しかし、千代田区が嫌になったわけではなく、もし定年後も仕事と関係なく自分を迎えてくれる場所があれば、千代田区で活動したいという人は多いのではないだろうか。今まで千代田区でやってみたいこと、見てみたいことがあっても仕事が忙しくてできなかった人もいたと思う。区で行うセミナーなどはほとんどが千代田区在住・在勤が対象なので、今後は在住・在勤だけではなく、千代田区OB/OGという枠を設けたらどうか。そのような人達が帰ってこられる場所 Home coming 千代田区を希望する。
- 多国籍・多文化の共存ポイントを含むコース。
- 大使館の方や外資系企業の方(外国人)から母国の話を聞く、その国を学ぶ。
- 音楽会、演奏会、イベントなどを開催する場合に必要な知識(法律含む)と実践。
- 千代田区の芸術プラン(音楽・美術)を学ぶ。開催時にスタッフやボランティアとして活動する。
- やり直し高校授業。千代田区には区立の高校（中等教育学校）があるので、大人向けの理科実験講座や高校の教科書を使っての日本史や世界史、地理など。
- ボランティア・プロボノについて。
- 千代田区内の企業の紹介、先進的な取り組みなどの見学。

IV 今後の展望と課題

1. ちよだ生涯学習カレッジに期待すること

全8回に渡って開講された「モニターコース」は応募者の人数も多く、さらに年齢層も多岐に渡っていた。年齢層の幅が広いことはまさに本カレッジがめざすところでもある。モニターコース受講者からは、本カレッジで「自分自身の学びを深める」ことや「仲間づくり・居場所づくり」、「実践的な能力を得る」こと、卒業後は「生涯学習関連のイベント運営の手伝い」、「生涯学習大学にボランティアとして関わりたい」等々の意見が寄せられた。

また、本カレッジの今後のあり方として重要になるであろう意見として、「大使館の方や外資系企業（外国人）から話を聞く」などの千代田区ならではの特質を活用していくようなコースの提案、千代田区立の中等教育学校を利用した「やり直し高校授業」の提言等々、いずれも生涯学習のあり方の本質をついた意見が提示されている。

これらの意見は、本カレッジ開設にあたっていずれも推進委員会議で懸念され、議論されてきたことではあるが、モニターコースの実施によってこうした懸念は払拭できたのではないかと考える。是非、本カレッジの1つの方向性として推し進めていきたい。

結びに本カレッジの卒業生が、生涯学習コーディネーターとして、ただちに地域で活躍できる人材となり、学習によるまちづくりや地域力の向上に貢献することを期待する。

2. 今後の課題と生涯学習推進委員会議の役割

モニターコースの実施により今後の方向性は示されたが、大事なことは本カレッジで学んだ成果を適切に生かせる社会を実現していくことである。

受講者から寄せられた「専門性を活かしたプロボノとして活動する場の紹介」、「卒業後も継続的に学べる場」、「他のボランティアやプロボノと交流の機会」、「ボランティアやプロボノ活動をするための相談やサポート」等々の意見は、その実現を迫る重要な意見であり、これらの意見・要望を現実のものとしていくことが、今後のカレッジ及び本推進委員会議の役割になる。つまり、カレッジ卒業生が活躍できるような「紡ぎ合う」場が確保できてはじめて本カレッジの意義が証明されることにもなる。

また、受講者自身が卒業生としての同窓会を組織したり、卒業生同士が得意分野を活かしたネットワークづくりを行うことなども、同様に期待される場所である。

一方で、モニターコース受講者から寄せられた「ボランティアは実践の場が無いと育たない。また、失敗と成功を重ねる事によって自分自身が判る」のであるから「できる事を一つ一つ着実に進めることによって、結果は自然に出てくると思う」という意見をかみしめて、推進委員会議とカレッジ関係者が協働しながら、両者が自己点検評価を怠らず、ちよだ生涯学習カレッジの充実の為に常に改善・改革をし続けることが必要であろう。